

C-52 ウール・ジャージのえり玉縁布の方向性について

文化女大 家政 ○高橋よし子 中尾典子 成瀬信子

目的 ウール・ジャージで玉縁のえりをつくるとき、ジャージは伸縮性があるため、必ずしも45°バイアスを用いなくともよく、また編目の方向が、えりの感じを支配することが考えられる。そこで玉縁の幅およびえりぐりによって、玉縁布をどの方向に用いたらいいか調べた。

方法 ウール100%、両面平編ジャージを試料とし、玉縁幅は出来上り0.8cm、1.6cm、2.4cmとした。布の方向はたて方向より右22.5°おきによこ方向まで5段階、えりぐりは前中心より1cmおよび2.5cm餘り下げた場合について行った。縫製時はえり布および身ごろに3cmおきに合印を入れ、つとめて縫製過程におけるジャージの変形をきけ、一定条件下で縫製するようにつとめた。縫製後、合印間の伸び、および一定のスタンに着用させた場合の、えり元から玉縁えりまでの距離を測定し、一方官能検査によって玉縁のえりとしての好ましさを評価し、検討を行った。

結果 玉縁布の一番好ましい方向は、1cmと2.5cmの両方のくりに対し一致し、2.8cm幅のときは右67.5°バイアス、1.6cm幅のときはよこ方向、2.4cm幅のときは右22.5°バイアスであった。また1.6cm幅、2.4cm幅は玉縁布のいずれの方向に対しても2.5cmのくりの方が2cmのくりよりも好ましく、2.8cm幅の細い玉縁幅のときは、布の方向によって好ましいくりの大きさが異なる。